

# どてらごや

第 11 号  
平成23年11月  
瑞宝山 不動寺  
TEL 75-4862

## 護摩礼壇の修復

不動寺はその名の通り本尊は不動明王です。正式本尊名は「大日大聖不動明王」といい、真言宗の本尊である「大日如来」の化身といわれていて、続日本書記には高名な仏師「小野篁(おののたかむら)作」と記されています。

本来、不動明王を本尊とする本堂の内陣には「護摩壇」が据えられています。もちろん不動寺にもあるのですが、残念ながら護摩を焚くことができませんでした。というのは、護摩を焚く釜が大戦時中に強制的に供出され、現在まで釜のない状態が続いていました。

今から35年、現住、良恒が副住職に任命された時、護摩焚き法要再開のため、老朽化した護摩壇を修復新調することを考え見積等を行ったところ、最低500万円という高額費用がかかることが分かり断念を余儀なくされた経緯がございます。

この度、娘婿の辻和道師が副住職に就いたことを機に、再度見積もりしてもらったところ修復技術も変わり、護摩壇はほとんど新品同様に、しかも35年前の見積額のほぼ半額で修復できることがわかり、この際、長期割賦にてお願いすることと致しました。なお修復完成は12月中旬になります。



老朽化した護摩壇 (写真上)



一部朽ちている脇机と灯籠 (写真上・下)



蠟燭台や灯籠、脇机などもすべて修復されます。

## 護摩焚き法要の厳修

12月28日 終い不動

(時間) 午後1時~3時  
(場所) 不動寺  
(供料) 1000円(一祈願)

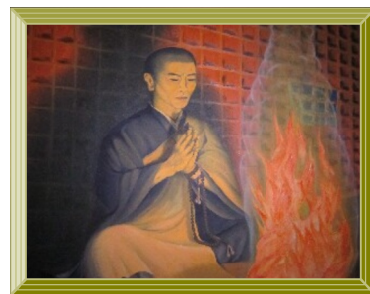
最近、スポーツに関連したテレビ番組で阪神タイガースの新井貴浩選手が毎年シーズン前に法衣を着て護摩祈祷をしていると、そのようすが報じられていました。法衣は飛び火で穴が空き、顔にはやけどの跡がいくつも残るそうです。厳しい護摩法要の中で心を集中し、迷いをなくし、シーズンを通してがんばれる精神力を養うのだそうです。

この護摩焚き法要は護摩祈祷とも呼ばれ、弘法大師が日本に伝えたものです。護摩の火は悪魔を降伏し、悪意のある人の心をきよめ、戒め、また悩める人の心の迷いを取り除くとされています。護摩祈祷は自分のためでもあり他のためでもあります。

さてこの度、不動寺では、修復を記念してお不動さんの縁日で12月の終い不動の28日に下記にて護摩焚き法要を厳修致します。

どうかおそろいでお参り下さいますようお願い致します。

行者は護摩木に祈願種目を書込み護摩行中に祈願奉誦し焚きあげます。参拝者は不動真言「のうまくさんまんだ ばざらだんせんた まあかろしゃだ そわたやうんたらたかんまん」を一心不乱に唱え続け、所願成就を祈願します。



左の絵は昭和47年に護摩修行する自画像を描いたものです。以来40年近く本堂に飾っています。

ホームページは [不動寺トップページ]で検索